

学科名	生物環境化学科 電気通信・電気電子工学科 建築・デザイン学科 情報学科 経営ビジネス学科						
科目名	哲学と人間・社会						
科目区分	教養教育科目	単位数	2単位	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択科目						
担当者	安居 誠						
授業の到達目標 (シラバスから)	<p>①倫理思想上の概念を、具体的な歴史の事象と関連づけて理解することができます。</p> <p>②いわゆる《倫理問題》を、議論によって決着の着く問題とそうでないものに切り分けることができるようになり、それに よって広い視野と寛容な態度を得ることができます。</p>						
日程と内容	<p>4/10 1. 導入講義：エートス論</p> <p>4/17 2. 「義務の倫理」と「気概の倫理」</p> <p>4/24 3. ニーチェ —— 価値の転倒</p> <p>5/ 8 4. 「正しさ」と「間違い」</p> <p>5/15 5. 哲学と宗教</p> <p>5/22 6. 「自然」と「慣習」</p> <p>5/29 7. 「死の訓練」としての哲学</p> <p>6/ 5 8. プラトンの超越</p> <p>6/12 9. アリストテレスの自然主義</p> <p>6/19 10. 《七つの大罪》と倫理</p> <p>6/26 11. 卓越性としての徳</p> <p>7/ 3 12. エウダイモニアとは何か</p> <p>7/10 13. 儒教道徳と徳倫理</p> <p>7/17 14. 現代の徳目</p> <p>7/24 15. リベラルの徳</p>						
成績評価基準	定期試験	80%	実技				
	臨時試験	5%	部外評価				15%
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題 演習		計				100%
授業到達目標の達成度	ほぼ、達成できたように思います。						
反省点	試験の合格率が高いわりにS評価(90点以上)の割合が極端に低いこと、アンケートの設問1「授業の内容は理解できましたか」や設問6「授業内容に興味を持つようになりましたか」の得点が(特にこのクラスはかなり)低いことなどを勘案すると、この科目を勉強する積極的な誘因を導くのにあまり成功していなかったように思います。						
来年度の計画	講義の最後に簡単な問題(倫理的なジレンマや論理パズルなど)を出すという試みを続けていますが、今回、問題の数自体は少なくなかったにもかかわらず、学生自身の答えを実際に提出してもらう機会が非常に限られていました。そのことが上記の反省点に繋がっているようにも感じます。来年度は、授業の構成をもっと余裕のあるものにして、確実に学生の考えを把握するようにしたいと思います。						
授業評価アンケートに対するコメント	上の項目の続きになりますが、講義の最後に出した問題(この場合は「カントの手袋問題」)の解答を、授業評価アンケートの自由記述欄に書いてくれた学生がいて、申し訳ないような気持ちになりました。裏面に回答してもらえよう出席カードを別に配るべきでしたね。ちなみに、ほぼ正解でした。						
履修登録者数	109名	定期試験 受験者数	94名	合格者数	81名	合格率	86%